

平成 29 年度 第 3 回西宮市環境計画策定部会 議事録（発言要旨）

- 開催日時: 平成 29 年 12 月 21 日(木) 10:00~12:00
- 開催場所: 西宮市役所 本庁 6 階 681 会議室
- 出席者: 野島部会長、清水副部会長、西明委員、北村委員、服部委員、中島オブザーバー
- 事務局: 須山環境局長

(環境・エネルギー推進課)山中課長、吉田係長、八木係長、藤原副主査、松井主事

(環境学習都市推進課)藤原課長

(施設管理課)山村課長

(美化企画課)森川課長

((株)地域計画建築研究所(アルパック))中川、駒

1. 第 3 次環境基本計画の素案について

- ・ P1 の図は、「未来に引き継ぐ」が一番下に配置されているが、一番上に変更した方がよいのではないか。(委員等)

→検討する。(事務局)

- ・ P4 の環境目標のボックスも同じ色分けにした方がわかりやすい。また、各目標に掲載する写真は、目標の文言をイメージできる写真を選ぶのはどうか。(委員等)
- ・ P4 の「生物多様性」の説明文に、防災・減災の言葉を入れて「自然環境を守り、防災・減災にも繋がる生物多様性を高めるための取り組み」にしてはどうか。(委員等)
- ・ P4 の「安全・快適」の説明文に、「良好な大気・水質・土壌などを次世代に引き継ぎ、」とあるが、快適には繋がるが、安全にはどのように繋がるのか。わかりにくいので、もう少し言葉をいれるべき。(委員等)
- ・ P5 の「山、川、海が揃う西宮市の環境」の表現で、「揃う」という言い方は適切なのか。(委員等)

→P4、P5 の表現については検討する。(事務局)

- ・ P7 の「これまでの西宮の環境の歩み」について、事業の実施、宣言などカテゴリーに分けて、配置を変えているのか。(委員等)

→P7 の配置は、テキストボックスの大きさのバランスを考慮して配置している。(事務局)

- ・ カテゴリーで分けるなど、配置についても検討していただきたい。(委員等)
- ・ P7~8 の年号の表現（平成、西暦）を統一したほうが見やすいのではないか。(委員等)
- ・ P5 の地図で、北部は何も示すものは無くてもよいのか。(委員等)
- ・ 北部のモリアオガエル場所は、指定地区になっているのか。(委員等)

→指定地区にはなっていない。紙すきを学ぶ学習会では、自然の恵みと人との関わりを学ぶ機会になるので、北部地域でも何か示すものを検討したい。(事務局)

- ・ P6 の甲子園浜自然環境センターは、「阪神間で唯一」とあるが、他の施設に関しても、「阪神間で唯一」である。また、施設の説明欄について、「～施設」、「～推進」とまとめ方が統一されていない。(委員等)
- 正確には、「阪神間で唯一の自然海岸にある施設」という意味であったが、説明不足であった。表現の仕方については検討する。(事務局)
- ・ 「生物保護地区、自然保護地区」の項目に、「天然記念物」も記載した方がよいのではないか。また、北部には天然記念物はないのか。地図上において、北部で示すものがあるのではないか。(委員等)
- ・ P13 の参画・協働に関して、「地域力」とは具体的にどのようなものなのか。実際の行動に結びつくような記述をすべきである。(委員等)
- 「地域力」というもの自体が、イメージがしにくいものである。「地域力」を具体的に認知できるように、コラムの活用も検討する。(事務局)
- 「地域力」とは、ネットワーク形成と資源開発である。「ネットワーク形成による開発的な展開」の意味を行動目標に具体的に記述していただきたい。(委員等)
- ・ 世の中の仕組みが「持続可能」ではなくなっているから、「持続可能」と叫ばれている。コミュニケーションが薄くなってきている今だから、地域力を高めていかないといけないという点を強調したい。自分ごとに思えない「持続可能」と「市民」を近づける為の記述があれば、「自律と協働を原則としたパートナーシップにより地域力を高め、持続可能な共生のまちづくり」が得られるのではないか。(委員等)
- 検討したい。(事務局)
- ・ P11 (1) の「EWC 事業」とあるが、具体的に何を指すのか分かりづらかった。(委員等)
- ・ 「生涯学習」というキーワードがあってもよいのではないか。(委員等)
- ・ P11 (1) の「次世代に引き継ぐためのプログラムづくり」が、イメージしづらい。具体的なプログラムがあれば記載していただきたい。(委員等)
- ・ EWC 事業だけでなく、エココミュニティ会議独自で行っている活動も含めて、環境学習のしくみを推進すべきである。(委員等)
- ・ 市民が「地域が好きで、地域を守る為に環境活動を行う」ことこそ地域力ではないのか。(委員等)
- ・ P20 に「まちの緑を育む」とあるが、「山の緑を育む」はないのか。防災・減災の機能を含めた「新しい山の緑を育む」という言葉を入れたほうがよいのではないか。(委員等)
- ・ P11 (1) の「また、環境学習では、自然のすばらしさを体験し」は、前文に「環境学習」が記載されているので、「生涯学習では」に変更してはどうか。(委員等)
- ・ P14 の「国際交流・貢献」の貢献の部分はどれになるのか。開発途上国に対して、水道等の技術支援ができるのであれば記載していただきたい。(委員等)
- 環境目標を取り組んでいくことで、「国際貢献」に繋がるというイメージである。技術支援の記載に関しては、検討する。(事務局)

- ・ 1つのコラムについて、写真もまるまる掲載するのか。コラムの文章自体は、用語説明なのか。(委員等)
- 写真も掲載する。目標の内容に関する豆知識も記載する。また、例えば、学びあいに関して、EWC 事業がわかりづらいのであれば、用語説明としてコラムに記載することも検討している。(事務局)
- 知識だけでなく、心動かすような事例の紹介もあってもよいのではないかと。(委員等)
- 検討する。(事務局)
- ・ コラムの方では「エコスタンプシステム」、素案の方では「エコポイントシステム」と表現されているので統一していただきたい。(委員等)
- ・ 低炭素に関して、「2013 年度比 26%に近づける」というのは、国の 2030 年度の目標である 26%に近付けるということであると思うが、読み手には、国の目標を参考にしている事が伝わりにくいので、表現を工夫してほしい(委員等)
- ・ 西宮市でも素案の資源循環の指標で「生活系のごみ排出量 平成 28 年度比 10%削減」とあるが、「10%」とはどのくらいの量を削減すればよいかわかりにくい。千葉県市川市が具体的に数値で表しているのを、参考にしてほしい。市民に対しても数値で「見える化」にすることを意識してほしい。(委員等)
- ・ P22 の「人にやさしいまちづくりの推進」について、市民が取り組みを実施する主体に入っていないのは理由があるのか。(委員等)
- 一度整理する。(事務局)
- ・ 素案に関して、全体的にカラーだったが、行動目標・環境目標から白黒になっているので、読み手としては、読みづらいのではないかと。P3 の目標毎の色を使って、各目標の説明もカラーで表現してはどうか。(委員等)
- ・ コラム一覧の「リサイクルは処理の過程で、エネルギーを使うことから特に、ごみの減量には、「リデュース」と「リユース」の 2R を進めることが重要です。」を読むと 2R の必要性を感じるので、資源循環のコラムの欄に記載してはどうか。(委員等)
- ・ 教育委員会でも、まちの緑の中で、日野神社の社叢林か西宮神社の社叢林を地域の住民で守るという議論がなされているので、その点も「生物多様性」に入れてよいのではないかと。(委員等)
- ・ P20 の④「暮らしや産業の中で多様な生態系サービスの持続可能な利用」は、前回生態系サービスがわかりにくいという事で、今回わかりやすく修正されているが、「利用していきます」だけでなく、「利用していけるように、保全していきます。」の方がよいのではないかと。(委員等)
- ・ 文言が増えると一般市民にとっては読みづらいので、できるだけシンプルにして、補足はコラムで記載する様にした方がよいのではないかと。(委員等)
- ・ P22 の(4)「自然災害や気候変動に対応したまちづくり・暮らしの推進」の「森林保全を行います」は、「森林整備」が適切ではないかと。(委員等)

- ・ 進行管理について、具体的に何を実施するのか。図を見てもわかりにくい。(委員等)  
→シンプルに表現していたが、他市を参考に検討したい。(事務局)
- ・ P23 の図について、環境計画評価会議は、施策のチェックのみとなっているが、提言もしているのので、追記をお願いしたい。(委員等)
- ・ 環境計画推進パートナーシップ会議から市民、事業者等に相互の矢印が出ているが、会議に多くの主体が参加しているとの表現だろうが、一般市民が見てわかるだろうか。文字での補足が必要である。(委員等)
- ・ 修正する。(事務局)
- ・ 全体的な事だが、P11 以降の行動目標、環境目標の構成に関して、各目標の横に、P3 の四葉のクローバーを該当する目標の部分のみ色付けして掲載した方がわかりやすいのではないか。(委員等)
- ・ P15 以降の取り組みを実施する主体の中で、「事業者」はどこまで含まれるのか。また、事業者への周知は、どのように行うのか。(委員等)
- ・ 市政ニュースは、工場や店にも配布されているので、市政ニュースを通して周知される。具体的に、どこまでが事業者なのかは、推進計画の中で決められていくので、基本計画では、そこまで記載しないということでもいいのではないかと思う。(委員等)

## 2. 連絡事項

- ・ 素案の検討は、今後の策定部会で行うか、環境計画推進パートナーシップ会議で行うかは検討する。次回の環境計画推進パートナーシップ会議は、2月7日に行う予定である。(事務局)